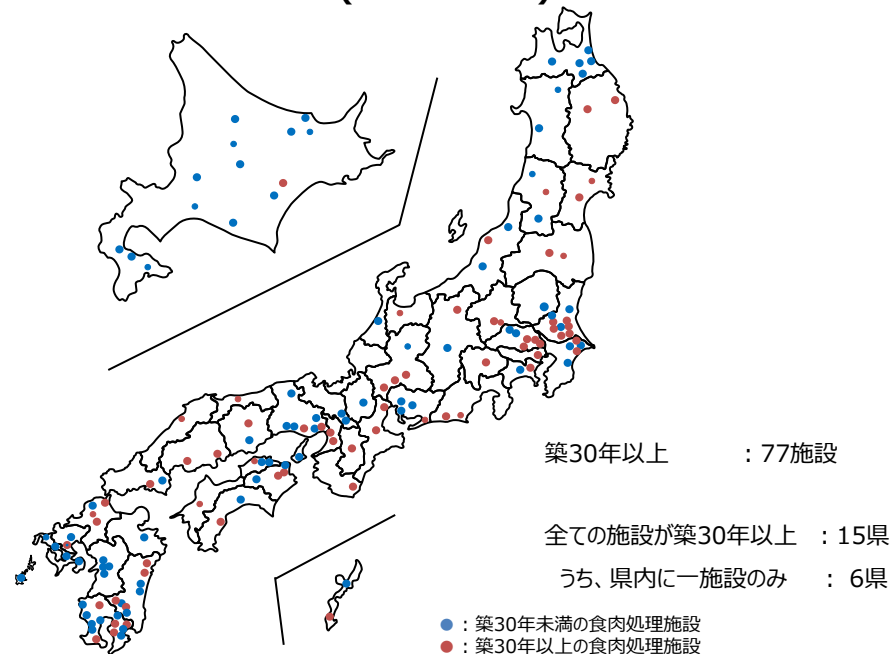


食肉処理施設の施設整備のための中長期ビジョン

課題

- 食肉処理施設については、**築30年以上の施設は77か所あり、全体の約半数**。特に、**15県では、築30年以上の施設のみ**となっており、うち**6県は県内に一施設**しかない。
- 食肉処理施設の収入源は、主にと畜料や加工料に限られるため、**巨額の施設整備費への投資に対する懸念**があり、**多くが大規模な整備に踏み切れず老朽化が進行**。
- 地域的に同一県内での再編が困難な施設、国内向けの主幹施設**があるが、**現行の支援スキームでは、こうした施設の更新が困難**。
- 稼働率と老朽化の状況を再確認しながら、（状況次第では県域を超える再編等も進めながら）必要な施設の整備を進めなければ、**我が国の食肉供給システムに支障が生じるおそれ**。

食肉処理施設の老朽化の現状
(2024年時点)



資料：農林水産省「畜産物流通統計(R5)」、厚生労働省「と畜・食鳥検査等に関する実態調査(R4年度実績)」を基に、農林水産省にて作成

中長期ビジョン

- 食肉の供給システム上、不可欠な食肉処理施設について、老朽化・稼働率の低下が課題となる中で、**再編や輸出対応型としての施設整備を進めることが重要**(その際、稼働率や老朽化の状況次第では、県域を越えた再編等に向け、地域で取り組む場合の後押しが課題)。
- 同時に、既に再編等が進んでいる地域において、**稼働率が高く、生産量の多い中核施設の整備を計画的に実施していくことが重要**。

家畜市場の現状及び課題

- 家畜市場は家畜取引のための重要インフラ施設であるが、特に中山間地域や離島などでは、毎月開催できずに**購買者が集まりにくく**、セリが低調な市場も存在。また近年では**再編も低調**。
- **購買者にとって魅力的な家畜市場とするためには、家畜市場の再編・整備の推進が必要。**

○家畜市場の現状

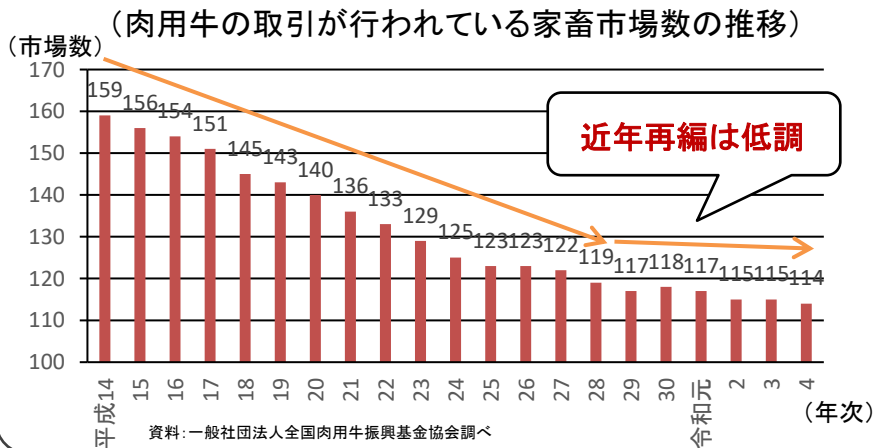
中山間地域や離島など条件不利地域の市場では**購買者が集まりにくく、価格も競り上がらない**

購買者にとって魅力的な家畜市場となるよう、

- ・一定規模の取引数
- ・毎月開催
- ・日齢・体重のバラツキ解消

を整えるためには、再編を進めることが必要

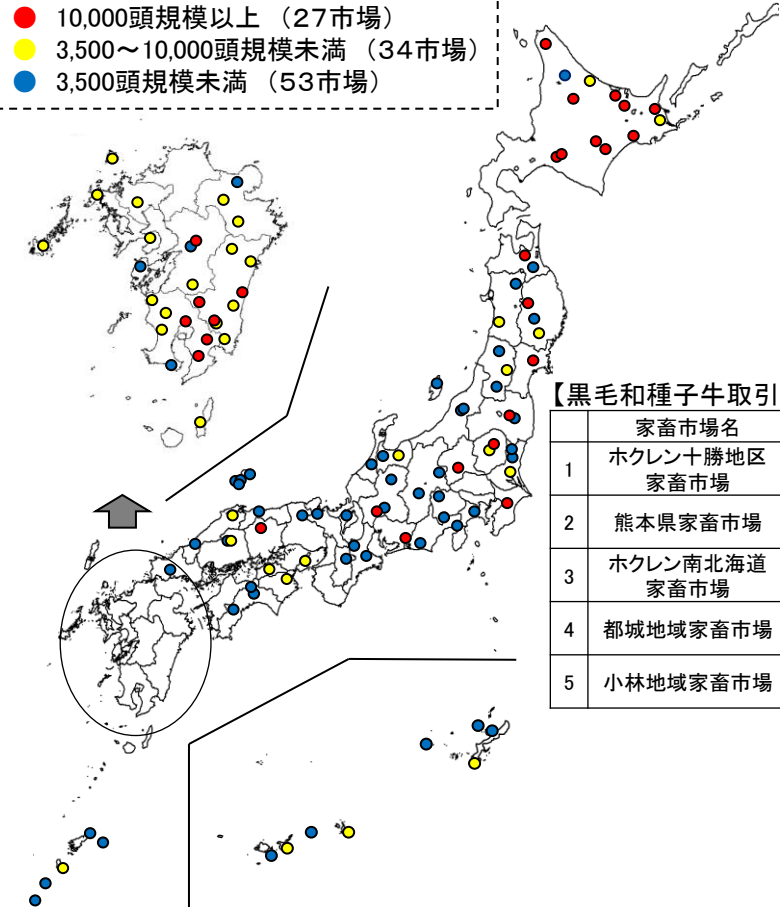
セリの活性化、適正な価格形成にも寄与



○全国の家畜市場の配置図(令和4年)

<肉用牛の年間取引頭数>

- 10,000頭規模以上 (27市場)
- 3,500～10,000頭規模未満 (34市場)
- 3,500頭規模未満 (53市場)



【黒毛和種子牛取引頭数の上位5市場】

	家畜市場名	都道府県	取引頭数
1	ホクレン十勝地区家畜市場	北海道	23,453
2	熊本県家畜市場	熊本県	21,060
3	ホクレン南北海道家畜市場	北海道	18,675
4	都城地域家畜市場	宮崎県	16,746
5	小林地域家畜市場	宮崎県	16,665

家畜市場再編の具体事例

- 令和2年8月、長崎県の平戸口中央家畜市場へ、離島にある宇久小値賀家畜市場を統合
- 統合により毎月開催となり出荷頭数が安定し、出荷される子牛の日齢、体重等のバラつきも減少
- 購買者にとって魅力ある市場となったことで購買者も増加し、セリが活性化

統合前の状況

うくおぢか 宇久小値賀家畜市場

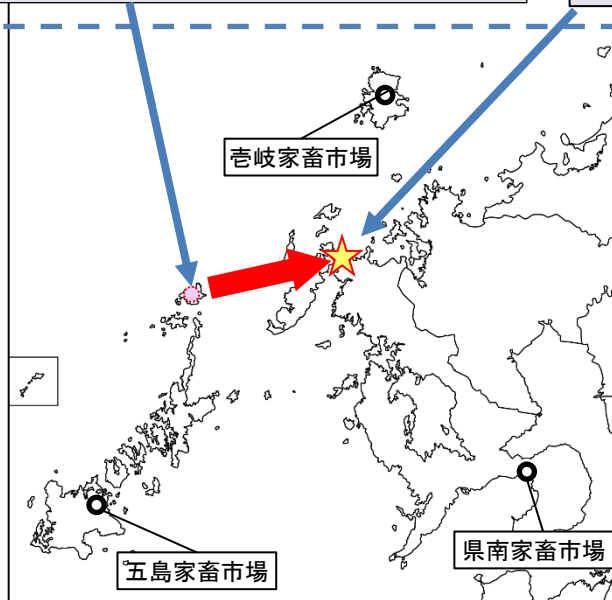
- ・ 年5回開催のため子牛の出荷日齢・体重にバラつき
- ・ 繁殖農家と出荷頭数が減少し、購買者も減少
- ・ 離島にあり天候の影響大
- ・ 施設も老朽化

ひらどぐち 平戸口中央家畜市場

- ・ 年8回開催のため子牛の出荷日齢・体重にバラつき
- ・ 1開催あたり出荷頭数の偏り(350～800頭)があり、不安定な供給

市場の魅力の
低下

課題解決に向けた
議論へ



(市場の在り方検討)

- ・ 生産者、農協、県、自治体等による「家畜市場運営の在り方検討会」を立ち上げ
- ・ 2市場の統合を提案

(市場統合に向けた課題への対応)

- ・ 市場が遠くなる離島の出荷者に対し、市場利用者からの一律負担金の徴収し、離島出荷者への輸送費を助成
- ・ キャトルセンターを整備し離島からの子牛の受入れを可能に

平戸口中央家畜市場への統合後

- ・ 毎月開催となり、1開催あたり出荷頭数600頭程度で安定
- ・ 子牛の出荷日齢・体重の平準化

購買者が増加し、
セリが活性化

⑥ 流通体制の強化

- 食肉処理施設は食肉供給の重要なインフラ施設であるが、労働力不足、施設の老朽化、稼働率の低下等が課題
- 家畜市場については、特に中山間地域や離島など条件不利地域では購買者が集まりにくく、価格も競り上がらない状況



- ・食肉処理施設については、老朽化・稼働率の低下等に対応するため、今後の集荷や販売の展望を踏まえた再編・整備や省力化・高度化の推進
- ・家畜市場については、セリの活性化等を図るためにも、再編・整備の推進
が必要ではないか。

＜対策のポイント＞

物価高騰に伴う消費者の生活防衛意識の高まり等により、和牛肉の需要が軟調に推移していることから、緊急的かつ強力で和牛肉の需要を喚起し、需給状況を改善する必要があるため、食肉事業者等が行う新規需要開拓、和牛肉関連イベント等における消費拡大・消費者理解醸成、インバウンド消費の喚起の取組等を支援します。

＜事業目標＞

牛肉生産量：33万t〔平成30年度〕→ 40万t〔令和12年度まで〕

＜事業の内容＞

1. 和牛肉の新規需要開拓に対する支援

和牛肉の販売拡大や販売方法の多様化を図るため、食肉事業者が行う和牛肉の新規需要開拓等の取組を支援します。

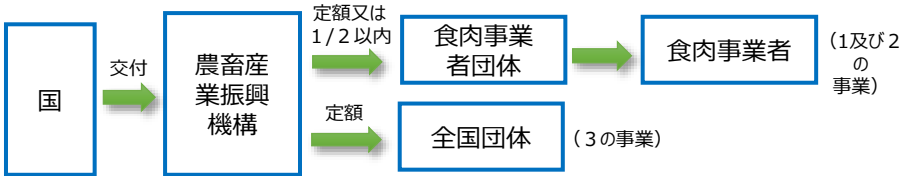
2. 和牛肉関連イベント等の機会を活用した消費拡大・理解醸成に対する支援

食肉事業者等が和牛肉関連イベント等において実施する、和牛肉の消費拡大や理解醸成の取組等を支援します。

3. 和牛肉の輸出拡大にもつなげるインバウンド消費の喚起に対する支援

全国団体が旅行会社等と連携し、ホテル、外食店、パック旅行、体験型ツアー等において、訪日外国人を対象に和牛肉を提供する取組等を支援します。

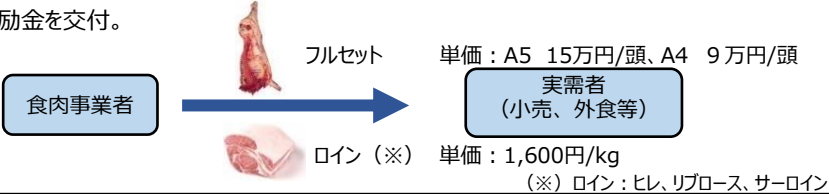
＜事業の流れ＞



＜事業イメージ＞

1. 和牛肉の新規需要開拓に対する支援

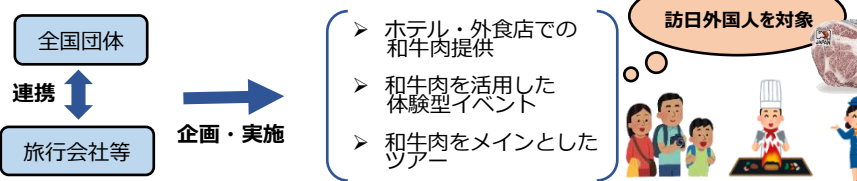
物価高騰により販売が伸び悩む和牛・高価格部位の需要開拓のための計画に基づく販売に奨励金を交付。



2. 和牛肉関連イベント等の機会を活用した消費拡大・理解醸成に対する支援



3. 輸出拡大にもつなげるインバウンド消費の喚起に対する支援



合併の種類		合併年度 合併後の市場(開設者)	合併前の市場 (開設者)	概要
市場の新設あり	開設者が異なる 市場の合併	平成24年度 秋田総合家畜市場 (あきた総合家畜市場㈱)	広域由利家畜市場 (秋田しんせい農協) 大曲家畜市場 (秋田おぼこ農協) 鹿角家畜市場 (秋田県畜産農協)	県内3市場が合併し、県内一円の牛を集めることで出荷頭数を確保。 合併に伴い補助事業を活用して、新たな市場を整備。
	開設者が同一の 市場の合併	令和2年度 あいち家畜市場 (愛知県経済連)	新城家畜市場 豊橋家畜市場 (愛知県経済連)	県内2か所で運営していた家畜市場を集約し、出荷頭数を確保。 合併に伴い補助事業を活用して、新たな市場を整備。
市場の新設なし	開設者が異なる 市場の吸収合併	令和5年度 熊本県家畜市場 (熊本県畜連)	熊本県家畜市場 (熊本県畜連) 天草家畜市場 (熊本県畜産農協)	熊本県家畜市場が取引頭数の少ない天草家畜市場を吸収合併。
	開設者が同一の 市場の吸収合併	令和2年度 平戸口中央家畜市場 (ながさき西海農協)	平戸口中央家畜市場 宇久小値賀家畜市場 (ながさき西海農協)	平戸口中央家畜市場が離島の宇久小値賀家畜市場を吸収合併し、出荷頭数を確保。 合併に伴い平戸口中央家畜市場の施設を改修。
		令和3年度 奄美大島家畜市場 (鹿児島県経済連)	瀬戸内家畜市場 笠利家畜市場 (鹿児島県経済連)	島内2か所で運営していた家畜市場を瀬戸内家畜市場に集約(市場名を変更)し、出荷頭数を確保。